

○文化財建造物修理技術者

ほりうち ひろお
堀内 啓男氏

昭和6年5月23日生（84歳）

[略歴]

同人は、昭和25年3月に奈良県立新制吉野高等学校建築科を卒業後、同年6月建造物保存修理技術者として奈良県教育委員会文化財保存課に採用された。それ以降、永年にわたり専門知識と特殊な技術を必要とする文化財建造物の修理技師として精励し、貴重な国民的財産である文化財の保護に大きく貢献してきた。

同人が携わってきた建造物修理は、春日神社本殿（大和郡山市）を振り出しに唐招提寺経蔵、靈山寺三重塔、法隆寺東室などの社寺建築をはじめ、高木家住宅および西田家住宅といった近世民家建築まで、30数件もの多数にのぼっている。これらの修復にあたっては常に優れた技量を遺憾なく発揮し、所期の目的を達成させた功績は多大である。とりわけ、平城宮唯一の遺構である国宝唐招提寺講堂や、飛鳥時代に建立された国宝法起寺三重塔の解体修理では、復原調査等に全精力を傾注し、その成果は顕著な業績として高い評価を得ている。

昭和47年4月以降は出張所主任となり、建造物の保存修理事業の円滑な推進に重要な役割を果たす一方、現場における適切な技術指導や後進の人材育成に尽力した。

平成元年3月に奈良県教育委員会を退職した後は、社寺建築を専門とする瀧川寺社建築に顧問として入社し、在職中の経験を活かし文化財建造物保存に貢献している。平成10年の台風7号で被害を受けた国宝室生寺五重塔災害復旧工事では施工担当者として現場での技術指導を担い、平成20年からは興福寺中金堂復原工事で設計施工監理を担当している。

以上のように、同人は昭和25年6月以降、国宝・重要文化財建造物等の保存修理に一貫して関与し、技術・知識の継承に尽力した。